テーマ：松看生の学び合う力！成長する力！ー看護実践力を育むカリキュラムー
カテゴリー：教育方法



Ⅰ．学校概要
　パナソニック健康保険組合立　松下看護専門学校
　所在地：大阪府守口市早苗町 7−10　３年課程　１学年定員：40 名
Ⅱ．目的：「教える・学ぶ」の相互関係性の中で、看護実践力を育成する。
＜カリキュラムの実際＞

	１年生	２年生	３年生
４月	←	一泊研修	→
５月	学びの発表の聴講 ←	【高齢者の暮らしを知る実習】 学びの発表 →	
９月	【生活を支える看護Ⅱ ー事例による清潔援助ー】 ←	【学習支援演習】 １年生への清潔技術の支援 →	
10 月	←	【学習支援演習】 患者役を通して支援	→ 【基礎と臨地をつなぐ看護】
	１・３年生の合同演習 ←		→ １・３年生の合同演習
11 月	【看護を知る実習Ⅰ】 ←		→ 学習支援実習 ＊【看護の未来をつなぐ(統合)実習】の一部
	学びの発表 ←	学びの発表聴講	→ 学びの発表

１年生



入学して早々に全学年で『一泊研修』に行きます。２年生の先輩に付いて１年生も運営に携わり、全学年総勢 120 名で寝食をともにし、カリキュラム以外の松看生あるある話で盛り上がり、１年生はここから３年間の学校生活について学んでいきます。当校では年間を通して、各学年での実習の学び発表会を他学年が聴講できるように時間割を組んでいます。身近な先輩の看護に触れ、１年生なりに看護とは何かを考える機会になっています。

２年生

１年生の清潔技術の演習で事例患者さんを１年生とともに捉え、患者にとって安全・安楽・自立を目指した看護技術を一緒に考え実践します。また、１・３年生合同演習では、患者役になりきり、患者目線から感じた看護についての学びを 1〜3 年生の混合チームで共有します。そこから自己の看護技術や対象理解についてふり返り、課題を明確化していきます。

＊それぞれの授業を終えての感想

１年生【生活を支える看護Ⅱ】の感想	２年生【学習支援演習】の感想
・自分と違うところの視点を先輩のかかわりから学べた。 ・ただ単に清潔の手順や技術だけでなく、患者さんのことをわかりながら行うことが大事だと思った。 ・2 年生の患者さんへの声のかけ方やコミュニケーションが大事だとわかった。 ・技術をすることだけが看護ではないのだとわかった。	・教えるときにも相手の立場に立って教えることが大事。看護と同じだと思った。 ・人に教えるためには自分の技術だけでなく、知識もつけないといけない。 ・清潔技術を教えたつもりだったが、１年生はコミュニケーションなど違うところを学んでいた。自分たちが教えたつもりでも相手がそれを学んでいるとはかぎらないとわかった。

３年生



「教えることをとおして、自らも学ぶ」ことを主軸に３年生の統合実習（【看護の未来をつなぐ実習】）と１年生の【看護を知る実習】を同時に組み合わせた『学習支援実習』を行っています。３年生は複数受持ちという多重課題に加え、１年生の計画を聞いたり、一緒にケアを実践したり、１年生への支援も行っていきます。その前段階として、シミュレーションを取り入れた３学年合同演習を行います。１年生が患者(２年生)の観察を実施する場面を３年生がサポートします。このような過程を経て、３年生は１年生ならではの視点を知り学びを得、１年生への感謝の気持ちが芽生えたり、教える側の難しさを痛感したり、指導者への感謝や教えてもらう側の姿勢も学んでいます。

＊学習支援実習を終えての学び

１年生	３年生
・3 年生のかかわりを見て、看護は「技術をする」だけでないと感じた。 ・3 年生の指導から、やることに精いっぱいで患者さんの表情を全く見れていなかったことに気づいた。 ・自分の技術の未熟さを痛感した。3 年生のようになれるのかと不安もあるけど、そうなれるようにがんばろうと思った。	・1 年生と一緒に実習に行くことで、自分の足りないところや教えるために何が必要か、いつもと違う視点で考えることができた。 ・相手の学びを支えるには、相手の考えを知ることから始める必要があると学んだ。 ・1 年生のための支援とは、ただ教える・支援するだけでなく、1 年生が患者さんのためになることを考えられ、行動できるということを学んだ。

＊学生の力を信じ、学生とともに学び合い、学生とともに教員も日々成長しています！！